

## 令和2年 市政10大ニュース

| 順位 | 項 目                         | 説 明   |
|----|-----------------------------|---|
| 1  | 新型コロナウイルス感染症が広がり市民生活へも甚大な影響 | <p>1月に国内で初めての新型コロナウイルス感染症患者が発生し全国に広がる中、4月10日に本市第1例目の陽性患者が発生し、その後も感染例が発生するたびに、市民の間に不安が広がりました。感染予防のためのマスク着用や三密の回避など新しい生活様式が提唱される一方で、目に見えないウイルスへの恐怖から、感染者等に対する誹謗中傷や差別といった事象が社会問題化するなど、市民生活にも大きな影響を与えました。</p> <p>このような状況のもと、本市では新型コロナウイルス感染症への緊急対策として、7月までに3度の臨時議会を開催するなど、補正予算で総額448億円以上を計上し、国の特別定額給付金事業をはじめ、本市独自のプレミアム付飲食券、住宅小規模リフォーム助成事業など、切れ目ない個人や事業所への支援・対応に注力しました。新型コロナウイルスの終息が見通せない中、引き続き感染防止対策と社会・経済活動の両立を図る取り組みを進めていきます。</p> <p>※補足<br/>候補項目としていた「第56回鳥取しゃんしゃん祭、初の開催中止に」「砂の美術館第13期展示は会期を1年延長へ」「小・中・義務教育学校で一斉休業」「コロナ禍の文化芸術を支援」「麒麟のまちパートナーステッカーを作製」についても、新型コロナウイルス感染症に関連した内容として、本項目に含む形で選考。</p> |
| 2  | 因幡・但馬の麒麟獅子舞が重要無形民俗文化財に指定    | <p>鳥取市を含む麒麟のまち圏域に伝わる伝統芸能「因幡・但馬の麒麟獅子舞」が、国の重要無形民俗文化財に指定されました。指定にあたっては、他地域にはない麒麟を想起させるスタイルや特定地域内への濃密な広がり、100を超える保護団体が現在も活動していることなどが高く評価され、地域を象徴する民俗文化財として今後の保存・活用に弾みが付きました。</p>  |
| 3  | 鳥取市が「子育て世代が住みたい田舎」部門第1位受賞   | <p>「2020年版住みたい田舎ベストランキング（宝島社『田舎暮らしの本』2月号）」で、鳥取市が「子育て世代が住みたい田舎」部門第1位を受賞しました。総合部門では第2位を受賞し、8年連続でトップ10入りを果たしています。都市機能と田舎らしさがほどよく共存する鳥取市は、子どもの個性を活かす保育・教育や子育て支援も充実しており、子育て世代にとって安心して生活できる環境が評価されました。</p>  |
| 4  | 旧本庁舎跡地活用策の検討はじまる            | <p>旧本庁舎・第二庁舎の跡地の活用について、市民の合意形成を図るための手法を検討する「本庁舎等跡地活用に関する検討委員会」が設置され、市民の意見を反映して「求められる機能」と「具体的な活用策」の2段階の検討や、専門家委員や市議会特別委員の意見を踏まえて令和4年3月末までに決定する方針が決まりました。11月には具体的な活用策について広く意見を募る市民ワークショップも開催されました。</p>  |

## 令和2年 市政10大ニュース

| 順位 | 項 目                      | 説 明  |
|----|--------------------------|--|
| 5  | 集中豪雨による土砂災害が発生           | 9月26日、気圧の谷や日本海からの湿った空気の影響で山地を中心に積乱雲が停滞し、河原町・佐治町付近で記録的短時間大雨情報が発表され、特に佐治観測所では9月の日最大10分間降水量を更新するなど局地的な豪雨に見舞われました。国道482号線の道路陥没や佐治町尾際地内のキノコ工場が被災するなど、佐治町や河原町の山間部で土砂災害に見舞われました。  |
| 6  | 小中・義務教育学校を再編 校区審議会が答申    | 10月12日、鳥取市校区審議会より小中・義務教育学校の適正な配置と校区割について答申がありました。今回の答申では、市内を5つのブロックに分けた上で、概ね20年後の子どもたちの数はどうなるかを想定し、どこにどのくらいの数の学校が必要になるかの目安が示されました。今後は、市民の皆さまから意見をいただきながら、鳥取市の基本方針を作成し、望ましい学校のあり方を議論していくこととなります。                              |
| 7  | 山陰近畿自動車道 南北線都市計画策定に向け前進！ | 国土交通省は、高速ネットワークとして市内最後のミッシングリンクとなっている山陰近畿自動車道（鳥取豊岡宮津自動車道）鳥取～覚寺（通称：南北線）の対応方針を決定しました。これを受け、6月には国土交通省から鳥取県に都市計画素案が提出され、県により都市計画決定に向けた地元説明会や公聴会などの手続きが進められています。今後、近畿方面も含めた広域周遊観光の促進、産業振興、防災力強化、救急医療支援などの様々な効果が期待され、完成が待ち望まれています。 |
| 8  | 史跡鳥取城跡大手門の上棟式            | 復元整備を進めている鳥取城跡大手登城路のうち、大手門の上棟式が300年ぶりに行われました。鳥取城跡は戦国時代の山城を起源とし、江戸時代には国内12番目の規模を誇った鳥取藩32万石の居城で、今回の復元整備では、令和3年3月完成を目指し、鳥取城の正面玄関にあたる「大手門」の復元を進めています。国が認めた復元大手門としては、令和初の復元プロジェクトであることから、全国からも注目を集めています。                          |
| 9  | クマ（ツキノワグマ）の出没相次ぐ         | 6月下旬から、浜坂地内（鳥取大学乾燥地研究センター門前）をはじめ、岩倉、久松山、本陣山など例年になく民家に近い場所で、ツキノワグマと思われる目撃や痕跡情報が数多く寄せられました。人的被害が発生しないように、注意喚起の看板設置や広報番組を通じて市民への注意を呼びかけました。   |
| 10 | 全国初！青谷町でつづら折りの古代山陰道を発見   | 古代山陰道の発掘調査で、9mの道幅を持つ、つづら折りの古代山陰道が発見されました。古代山陰道は、飛鳥時代から奈良時代にかけて律令国家が全国に整備した古代官道の一つで、国家権力を誇示し、都と地方を最短距離で結ぶために真っすぐつくられたとされていますが、今回のつづら折りの道路遺構は国内初の発見例で、青谷上寺地遺跡に続いて国史跡クラスの遺跡としての評価も高まりつつあります。                                    |